



日本近代文学・アヴァンギャルドに関する研究

人文科学系・言語文化学領域

トーマス ハックナー 教授

Thomas Hackner

Dr. phil. habil.

■研究キーワード 日本近代文学 / アヴァンギャルド文学

■主な所属学会 GJF

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.6cac41bd09c8a6b1520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

私は主にドイツ語とドイツ語圏の文化(特に映画と文学)の授業を受け持っています。研究の中心は近・現代日本文学です。また、日本文学作品のドイツ語翻訳にも取り組んでいます。

現在までの研究テーマは以下の通りです。

- ・日本におけるヨーロッパ文学、特にアヴァンギャルド(ダダイズム、表現主義など)の受容
- ・日本文学における風景観と風景描写
- ・他のメディア(絵画、映画)や科学(地理学、心理学等)の文学への影響



島田雅彦『自由死刑』独訳



著書『日本におけるダダと未来派』

アピールポイント

- ・外国語習得には、まず外国の文化を深く知ることが理想です。文学や映画などの芸術作品を学ぶ場合も同様です。文化的背景を理解して初めて、真の理解が可能になるからです。
- ・大正期の日本の作家たちは、欧米のアヴァンギャルド(前衛運動)の情報をほぼリアルタイムで得ており、さらにその情報に精通していましたが、彼らの作品はしばしばヨーロッパの作家たちの作品とは大きく異なっています。その違いと理由は何だったのでしょうか？
- ・国外のみならず日本国内でも、自然に対する特別な感受性が日本文化の特徴であると広く考えられてきました。同時に、1900年前後の日本文学において「風景の発見」があったということも言われています。この「発見」に、伝統的な美学、西洋の新しい概念、さらには絵画の影響や新しい科学としての地理学はどのような役割を果たしているのでしょうか。
- ・日本人に多い自殺は、日本人の自己認識や他者認識のステレオタイプとして、多くの作品の対象となっています。20世紀の日本の作家たちは、伝統的な自殺の概念(切腹、心中)と近代的・西洋的な自殺の概念との対立をどのように扱っているのでしょうか。また、日本文学において西洋の心理学はどう受け止められているのでしょうか。
- ・研究テーマに関連する作品のドイツ語翻訳の他、研究とは直接関係のない作品の翻訳も行っています(島田雅彦、内田百閒、国木田独歩、高橋新吉など)。